

いわき市農業委員会だより150号発行を祝して



昭和48年7月1日発行から37年間。

当時全面モノクロだった『農業委員会だより』は、37年間の間に表紙カラー刷りへと移り変わり、ページ数も増えました。

年々変化を遂げる『農業委員会だより』ですが、今後も読みやすく・分かりやすく・親しみある紙面づくりを目指し、農家と農業委員会をつなぐ架け橋として取り組んでいきたいと考えております。

編集委員・事務局一同

昭和48年7月1日発行の第1号から37年間、年4回発行を続ける農業委員会だよりが、今回で150号を迎えました。誠におめでたく、改めて、先輩委員、歴代編集委員、事務局職員、そしてご愛読いただき投稿とご意見をお寄せいただきました。また、第1号発行時の会長が、私と同郷の山部隆雄氏であり、大変嬉しく、縁を感じます。この記念の年に、第16回「農業委員会だより」全国コンクールにおいて優秀賞に輝き、大変意義のある年と感じました。

農業委員会だよりは、農家の皆様への情報提供紙であり、その内容は、各種事業施策や農地制度といった、行政情報、農地の売買、貸し借り希望に関する情報、新規就農者や、地域で頑張る農業者の紹介等、真に多岐にわたるもので、市内の2つの農業協同組合の協力のもと、農事組合にお世話になり皆様へ配布しているところです。

今後更なる紙面の充実を図るべく、知恵と汗をかき、努力を重ねる所存です。皆様には、一層のご指導を賜りますようお願い申し上げます。

いわき市農業委員会会長 鈴木 理

いわきdeマルシェ♪

平成22年9月20日(月)、小名浜潮目交流館で「いわきdeマルシェ」が開催されました。主催は市と市農産物直売所連絡協議会であり、当日は22の団体が出店。新鮮な農林水産物や出来たての惣菜、市の特産品など、季節の美味しいものが、館内、交流広場いっばいに並んでいました。当日はあいにくの雨模様でしたが、会場は多くの買い物客であふれ、活気を見せていました。

今回の目玉は、米粉を使用して作った米粉パン。柔らかくしっとりした食感に、口にしたお客さんからは「普通のパンよりモチモチして美味しい!」と大満足の声。その他にも、米粉で作ったピザ生地に、無料提供された、いわき産の野菜をトッピングして焼き上げる「米粉ピザ作り体験」も大盛況でした。

また、交流広場では、JAいわき市梨部会会員によるいわき産の梨の販売も行われました。今年の梨は糖度が高く、試食したお客さんもその甘さにびっくり。お昼からは、市農業生産振興協議会主催による、1,000円で袋に梨詰め放題のイベントも開催され、多くのお客さんと賑わいを見せていました。

観光客や地域住民に対する、いわき産農林水産物や加工品のPR になったようです。



▲焼きたての米粉ピザ!
もちりした食感と香ばしさが
たまらない!

稲WCS専用収穫機による 収穫実演会が行われました

いわき市では、水田の有効活用と自給飼料の向上のため、約18ヘクタールの水田に稲WCSを栽培している。

稲WCSとは稲の穂と茎葉を丸ごと乳酸発酵させた家畜飼料で、良好な栄養価を有し、牛の嗜好性も高いことから、和牛繁殖農家や酪農家で利用されている。

また、収穫機以外は、現在所有している農業機械や栽培技術を活用できるため、稲作農家にとっても、栽培に取り組みやすいという利点がある。

9月13日(月)に平菅波のほ場で、稲WCS専用収穫機による収穫実演会が行われた。今回は、10アールあたりで、平均して7個のロールを収穫することができた。収穫された稲WCSは、市内の和牛繁殖農家等へ搬入し、一定期間発酵をさせた後、サイレージ(家畜飼料)として11月から繁殖牛等に給餌することとなる。今回使用した専用収穫機械は、短期リースにより調達しており、後日小川地区・三和地区でも収穫が行われた。

これらの取り組みは、水田利活用自給力向上事業対象作物とされており、水田をそのままの形で活用できることから、農業委員会としては、遊休農地対策としても大いに期待をしている。

